

令和2年度 第4回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和3年2月17日 開 催

豊橋市教育委員会

第4回 総合教育会議	
日時	令和3年2月17日(水) 午後3時00分～4時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長                      山西 正泰 教育長 内浦 有美 教育委員                渡辺 嘉郎 教育委員 中島 美奈子 教育委員              西島 豊 教育委員
事務局	大林 利光 教育部長                      駒木 正清 教育監 角野 洋子 教育政策課長                小林 久彦 美術博物館長 岩原 剛 文化財センター所長  ほか 2名
その他	傍聴人 2名

議 事 日 程

協議事項

- 1 教育大綱について
- 2 文化財保護と「豊橋市文化財保存活用地域計画」について

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和3年6月23日(水) 15:00～

(教育部長)

ただいまから令和2年度第4回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。  
協議事項は、2点ございまして、教育大綱についてと文化財保護と「豊橋市文化財保存活用地域計画」についてです。

協議事項

1 教育大綱について

■教育政策課長 協議事項について資料説明

(教育部長)

ポイントとなるのは、今回一般向けと子ども向けと2パターン作成いたしましたので、それぞれ「3つのメッセージ」「3つのすがた」がより伝わりやすい形となっているかどうか、また「市長のメッセージ」についてです。  
それでは、皆様のご意見をいただきたいと思います。

(渡辺委員)

フォントはこの案のものから替わりますか。

(教育政策課長)

今のものが最終案としたいと考えております。総合教育会議は今年度最後になりますので、文章や中身については、本日の協議をもって決定していただきたいです。

(教育長)

とてもよくできていますが、市長のメッセージの文章の右端が揃っていないので、これがきれいに揃えたいと思います。

(教育政策課長)

文章の言葉が改行によって途切れないようにするとこの形になります。

(教育長)

見やすさを重視したということですね。バラバラ感を感じますが、内浦委員はいかがですか。

(内浦委員)

私も初めは教育長と同じように思いましたが、言葉を切らないという意図を感じ取りました。なかなか難しいですね。見やすさを重視すると今の形ですし、きちっとした小学生のことばのきまり的には、文章の途中で改行は変だなと思う子もいると思います。

(教育長)

作文は、マスにいれていきますが。

(内浦委員)

より伝わるのが大切だと思います。

(中島委員)

原稿用紙だったらおっしゃるとおりだと思いますが、マスはないので、伝えることを優先してということであればいいと思います。

(渡辺委員)

子ども用に「グローバル」という横文字が入っていますが、子どもは理解できるでしょうか。

(教育政策課長)

そこは、前回もご意見がありまして、教育委員会で持ち帰り議論したのですが、この機に「グローバル」という言葉を子どもたちが身につけ、理解していくよいきっかけになればということもあり、そのまま残しました。

(渡辺委員)

言葉についても下に注釈をつけるのはどうですか。

(教育政策課長)

大綱の説明としての注釈は入っておりますが、渡辺委員が言われるのは、「グローバル」という言葉がわかりにくいのではないかということでしょうか。

(渡辺委員)

そうです。なかなか日本語で説明しづらいですが。

(教育長)

自分はこれでいいと思います。

(内浦委員)

言葉としての感覚を身につけることが大切だと思います。

(渡辺委員)

注釈をつけるよりは、「グローバル」という言葉で覚えてもらうことがよいということですね。

(内浦委員)

置き換える言葉としては、「国際社会」とかいろいろあるとは思いますが。

(西島委員)

置き換えることはできますが、意味合いが変わってしまいますね。「グローバル」という言葉が、もう日本語になっているのかなと思います。

(市長)

これは小学校1年生も同じものを見るわけですよ。理解できるでしょうか。

(内浦委員)

質問する子はいないかもしれませんが、先生方が共通の意味で説明できるようにした

方がいいと思います。教育大綱の「グローバル」について聞かれたらこう答えるというものがあるといいと思います。

(市長)

そうですね。人によって意味が違ってはいけません。

(中島委員)

「ふるさと」の下に「グローバル」という言葉が並んでいるので、うまく両方を生かし合っているのでもいいと思います。

(内浦委員)

「ふるさと豊橋」が、一般用の市長の言葉の下の方は括弧書きでくくってありますが、それ以外はくくってありませんので、どちらかに統一した方がいいと思います。「ふるさと豊橋」と並べてしまうと、日本語としては固有名詞になってしまいます。ふるさとの豊橋だったらわかりますが、特別な固有名詞扱いなら括弧書きで統一し、もう少しふわっとした固有名詞でいきたいのなら括弧は取るということで、どちらでもいいかと思います。

(教育長)

せっかく3つの姿の字数が合っていますので、市長さんのメッセージの方を取っていく方向でいいのではないのでしょうか。

(内浦委員)

市長さんのメッセージに感動しました。大人用も子ども用もどちらも心に響く文章だと思いました。

(教育長)

子どもたちの絵もいいですね。

(西島委員)

子どもたちに向けた文章表現がとてもいいです。誰に向けたメッセージなのかということがとても重要です。

(渡辺委員)

今回初めて、大人用と子ども用を作ったわけですが、どのように公開していくのですか。

(教育政策課長)

まず、公開時期についてですが、今作成している教育振興基本計画と同じタイミングで公表するため、3月末に公表することになるかと思います。今の予定でいきますと、4月の広報とよはしで教育大綱を作ったというご案内をしていますが、その中では、大綱を2種類載せるのではなく、ホームページを見ていただくご案内にする予定です。

また、子ども版については、GIGAスクールの一人一台配付のタブレットの中で子どもが見られる状態にしようと考えております。

(渡辺委員)

一般市民が見られるのは大人版だけということではないのですね。

(教育政策課長)

ホームページで両方見ることができます。

(教育長)

子ども用タブレットが起ち上がったときの初期画面に載るということですか。

(教育政策課長)

それは難しかったため、起ち上がった画面の中で、ジャンプするリンクを貼る形です。

(中島委員)

幼児教育の視点から見ても、この3つの姿はすごく通じていると思いました。保護者の方の中で非認知的な能力というものが話題になった時があったのですが、1つ目が「強い心」で、あきらめないとか粘り強くということ、2つ目は「広い心」で、多様性を認め合っていてということ、3つ目は「ふるさと豊橋」で、幼児教育だとアタッチメントというか、困った時に振り返れる場所があるからこそ安心して世界にはばたいていけるということで、3つともが幼児教育の観点でも保護者の方に伝えるのにも納得のいく文言だと思います。

また、市長さんのメッセージ中盤の「そんな皆さんを全力で応援していきます」が力強くて心強いと思いました。

(教育部長)

意見も出揃ったと思いますので、今おっしゃられた内容で3月末の発表に向けて準備してまいりたいと思います。

それでは、次の議題に移ります。

## 協議事項

### 2 文化財保護と「豊橋市文化財保存活用地域計画」について

#### ■美術博物館長 協議事項について資料説明

(教育部長)

説明の「文化財保存活用地域計画」は、文化庁が定める法定計画ですが、本市の計画は、それぞれの文化財のストーリー性を重視し、地域の特色を生かした地域の活性化や文化財保護の強化を図っていくというものでございます。このストーリーが1つのポイントかと思いますが、幅広くご意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(渡辺委員)

ストーリーというのが大変おもしろいかと思います。美術博物館の基本理念の中に文化財保護活動との連携を見据えてとありますが、ストーリーと美術博物館との連携はされるのですか。

(美術博物館長)

ストーリーとの連携ではなく、資料の扱いや保管方法についてのことで、指定された文化財や未指定の文化財、歴史資料などを美術博物館で保管や公開をするという意

味での連携となります。

(渡辺委員)

美術博物館が必要なものであるということは理解していますが、あまり利用しない人もいると思いますので、うまく利用できるような形で何らかのしかけを作っていただけるといいと思います。

(美術博物館長)

いろいろなジャンルの人に美術博物館に来ていただきたいと思っています。市民の方のイメージとしては、美術博物館と言いながらも美術館のイメージが大きいと思われませんが、改修計画の中で「美術」「歴史」「民俗」などのジャンルのバランスをよくとりながら、子どもを含め多くの人に来ていただけるしかけを考えていきます。そして文化財を積極的に活用した展示などをしていきたいと考えております。

(渡辺委員)

美術博物館と自然史博物館が豊橋にはあるわけですが、そこの連携はどういう形になるのですか。

(美術博物館長)

扱う分野が違いますので連携はしておりません。例えば、文化財に「葦生湿原」や「石巻山石灰岩地植物群落」などがありますが、植物や石灰岩などの岩については、どちらかというと美術博物館よりも自然史博物館になります。実際に、自然史博物館では、豊橋の自然というものを展示してありますので、その分野については自然史博物館の方で、それ以外の人類が誕生してからは美術博物館の方でというような住み分けをしております。

(渡辺委員)

「白い石(石灰岩)が歴史をつなぐ」というストーリーの中の「蛇穴」とかはどちらにも関わってきそうな感じがしますが。

(美術博物館長)

「石灰岩」を一つのキーワードとして取り上げ、関連するものとして豊橋の特徴的な蛇穴や石巻山、それからまだあまり知られていない文化財をつなぐストーリーとして出していきたいと考えております。

(渡辺委員)

自然史博物館と共通する部分があると思います。コラボしていくことは考えていませんか。

(美術博物館長)

考えておりませんでした。ご意見をいただきましたので、文化財という分野では通じていなくとも学問的には通じる部分についてアクションを起こしていきたいと思っております。

(渡辺委員)

自然史博物館の方では、東三河ジオパーク構想というものがありますが、この石灰岩みたいなものとの関係がありそうな気がします。そういったものとコラボしてもいいかなと

思います。

(教育長)

ストーリー性をもたせストーリーにまとめた後の活用の仕方はどうなるのですか。

(美術博物館長)

保存や活用方法については、その地域でやるのか、拠点を設けてやるのかなど、ストーリーの構想の中で練っていければと考えています。

(教育長)

その地区・地域に任せる前に、市の方で何らかの手を打つ必要があります。例えば、このコースを回ってくるとおもしろいというものをいくつか用意して、子どもたちや家族と一緒にそのコースを回って、次はこのコースを回るといようにつながっていくものを考え、全てを回りきったら次の所にステージアップするなどしていくと、子どもたちの意欲付けになるかなと思います。ストーリーを作るだけでなく、スマホなども有効に活用できるといいです。子どもたちにとっておもしろいものを与えてあげたいです。

(西島委員)

東三河の各所の写真を撮って事務局に送るとオリジナルのカードに変換され、全部を集めるとヘリコプターで東三河を遊覧できるという企画が過去にありました。

(渡辺委員)

そういうのは面白いですね。

さきほど教育大綱にあったふるさと豊橋について、我々でさえ、いっぱい文化財があるということを実は知りません。子どもたちが「豊橋には文化財が豊富なんだよ」と話ができるようになったら素晴らしいです。

(西島委員)

この計画を4年かけて策定ということは、アクション自体は4年後ということですが、この4年間でもったいないと思います。その期間にできることがあると思いますので、年度ごとでできることをやりながら進めることも大事かと思います。例えば、この前、吉田城の発掘調査のお堀を見させていただきましたが、発掘調査をやりたい人がいたらボランティアで参加してもらおうと、市民がお城にも触れることができるしプロジェクトも進んでいく、というように文化財を活用する仕方はいろいろあると思います。

(中島委員)

文化財の場所など整理して表にしてくださっているの、私も回ってみたいという思いをもちましたので、ぜひ生かしてほしいです。

さきほど教育大綱にもあったように、ふるさと豊橋をまず知って、「おもしろい」「やってみよう」と体験しながら自分も関わってみると、「ぼくここを掘ったんだよ」というように大人になっても根付いていくかと思います。これらのストーリーはとても面白いので、例えば、幼稚園・保育園ではよくやるのですが、散歩コースに部品を置いておいて最後に凧ができて公園で凧揚げをするなど、そのような体験型のもを取り入れながら、知的にも情緒的にもふるさと豊橋を愛することができるストーリーになるといいと思います。

また、渡辺委員が言われたように、自然史博物館と住み分けをするのではなく、コラボして「ここから先は自然史博物館が教えてくれるよ」というような形で連携してもいいと思います。

さらに、おそらく文化財までレベルが上がるものではないかもしれませんが、例えば、牟呂小学校の前校長先生が1つ教室を開放して、そこに昔から大事に集めていた農機具などその地区のものを展示していて、説明も書いてありこれはいいと思いました。文化財でなくとも「穂の国」の原点みたいなものが「それは各市民館にあるよ」「小学校にあるよ」とつながっていくと、すごくネットワークが広がっていき、「穂の国」がすごく納得できる言葉になっていくと思います。文化財と、それぞれの地区に根付いている家にもあるようなものがつながっていくと、また関心がすごく深まっていくのかなと思いました。

(教育長)

いろいろな学校に眠っているものがあると思いますよ。活用しなくては駄目だと思います。

(渡辺委員)

内浦委員が専門としている妖怪は活用できませんか。

(中島委員)

妖怪が案内してくれるみたいなのはいいですね。

(内浦委員)

妖怪というのも1つのストーリーです。

まず、子どもに知ってほしいということがあって、じゃあ子どもにうけるストーリーは何かを考えて、そこに関連する文化財などがいないかを探して、その後ツールを考えたときに、子どもたちが行くには足がないけども、ひいては行ってもらうにはどうするかということで本を作り、でも本だけでは好きな親子しか来ないから、じゃあパンにして市内16店舗のパン屋さんに近い文化財や妖怪のパンを作ってもらい、そのパン屋さんでしか買えない妖怪のパンと一緒にそのストーリーもカードにして販売してもらおう。そして、そのカードを読みながらパンを食べて、好きな子は現地に行ってパンを食べたりする「豊橋妖怪パン祭り」の企画ができました。

だから、ストーリーってすごい力があるものだと思います。ストーリーにおいて、ターゲットと手法を間違えてしまうとなかなか伝わりません。今回の資料を見て私が感じるのは、ターゲットの明確化と、ターゲットに響く手法を考えていかないと、さきほど教育長がおっしゃったように、作ったコンテンツをどう届けていくかというしかけの方を、お金もつけて市の方で考えていかないといけないと思います。

私の場合は、子どもというターゲットに加え、観光のために豊橋に人が来てほしかったので、観光文化として、豊橋の文化財を知ってほしいと思い、どうしたら東三河から、全国から注目され、来てもらうことができるかなって考えました。妖怪はキャッチーなので、多くのテレビ局が取材に来てくれるということがあって人を呼ぶことができました。

ツールとしては、大きく分けると市内向け・観光向けの2つがあって、市内向けの中でも一般と教育、大人と子ども・若者と明確に分けて、それぞれにストーリーの内容とツールを考えていくこととなります。それは本当に難しいので、できれば協議会の中に文化ツーリズムと歴史ツーリズムに関わっている方にも企画の段階で入ってもらいたいと思います。ストーリーの内容を考えるのは学芸員さんたちにお任せし、本当にすごい力量

があるので、それぞれの分野で任せていいと思います。

あと、まちづくりの点で豊橋のイベントでもったいないと思うのは、この前の古墳のイベントで雨の中で 400 人も来て、プラットの古墳のシンポジウムに行かせてもらっても何百人と来るわけですが、豊橋の美術関係のイベントはなかなかお金が落ちません。なので、観光文化財的なつくり方ができるプロデューサーが必要だと思います。単に、近くの老舗のお店をパンフレットに載せても行ってくれないので、観光的に回れるものを設計できる人が協議会の中に入っているといいと思います。そして、予算がない中でも、市としてお金をつけてやっていく姿勢があれば、豊橋はこんなに文化財がたくさんあって、これだけストーリーがあるのだから、絶対、観光文化市となるはずですよ。豊橋の地域資源は文化財であると思います。

(西島委員)

妖怪や文化財は独自性があるものです。近隣の市町と競い合っても仕方ないですが、豊橋としての独自性を出せば、グローバルな観点で、日本の豊橋、世界の豊橋として発展できるのではないかと思います。

(内浦委員)

ターゲットと付随するツールがちゃんと組めて、プロジェクトとして見える人がプロデューサーとなり、市が予算的にもバックアップできるようになれば、単なる計画に留まらず市の財産となると思います。

(渡辺委員)

内浦委員の意見を参考にぜひストーリーを考えていただきたいです。

(教育部長)

ご意見ありがとうございました。文化庁が示す文化財の保存活用地域計画ということで散発的にそれぞれの文化財に手をかけていくわけですが、さらに、全体として後世に残すような手のかけ方と、観光などにも活用して文化財が普段生活の中にあるものとなるよう考えていきたいと思いますので、今後ともこの話題については、機会を捉えてご意見をいただきたいと思います。

連絡事項

- ・ 来年度の協議事項
- ・ 次回開催日程 令和3年6月23日(水) 15:00～

(教育部長)

以上で、令和2年度第4回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。